

市制施行一周年記念式典を開催

“あいこうか”市民憲章を公表



市では、去る11月20日(日)甲南町の忍びの里プラザで市政施行一周年記念式典を開催しました。

式典には合併にご尽力をいただいた皆さんや市内各自治会の代表者の方などにご臨席いただき、市政施行一周年を共に喜び、またこれからの甲賀市の限らない発展を誓い合いました。

また当日は、甲賀市民のまちづくりの指針となる市民憲章の発表や合併にご尽力をいただいた皆さんへの表彰などが行われました。

式典では、オープニングで藤原梨佳さんと鈴木かずさんのバイオリンとピアノの音楽演奏に続き、中嶋武嗣市長があいさつし、「市政一周年を95,600人の市民の皆さまと共に祝いできることを喜んでいきます。これからはあらゆる可能性を模索し、市民との一体感をめざし、様々な課題に果敢に挑戦していくことが大きな飛躍につながると確信しています。また、市民の皆さんが安全で安心して生活できるまちづくりのために大切なことは、お互いを思いやる気持ちと人権を大切する気持ち、愛に満ち溢れた人の輪を共有していくことです。今後、甲賀市民が誇りと自信、高い志を持つて、憲章が高らかに謳いあげられる甲賀市を創っていくことを誓います」と述べました。

式辞の後、合併にご尽力をいただいた旧町長の皆さんに総務大臣表彰が、甲賀地域合併協議会委員としてご尽力をいただいた皆さんに市感謝状が授与されました。また、甲賀市民のまちづくりの指針となる市民憲章

の発表が続いて行われ、私たちのまち“あいこうか”の創造に皆さんも心新たにされたようです。

式典のフィナーレを飾ったのは、演劇塾「長田学舎(通称おさだ塾)」の皆さんによる『まちかどの藝能』です。江戸時代中期の芸商人の生活と心情(ころ)のあり方、さらに、素晴らしい芸術を立体的に再現した演技を見せていただきました。観劇された皆さんも芸商人が繰り広げる、懐かしさと心の温もりにあふれたひとときを楽しまれました。市政施行一周年、甲賀市発展の確かな一歩が今踏み出されました。



おさだ塾によるまちかどの藝能

表彰及び感謝状を受けられた方々 (敬称略・順不同)

総務大臣表彰	旧土山町長	旧甲南町長
旧土山町長	下村 博幸	田中 庄吾
旧甲賀町長	西田 貞夫	今井恵之助
旧信楽町長	西田 貞夫	
甲賀地域合併協議会委員	徳地 清平	鶴飼 長生
	平田 憲	森井 勇司
	柏木 純子	池田 惣一
	大橋 淳一	服部 治男
	片岡 新造	青木 洋八
	堂山 一常	筒井 勇雄
	松井 和子	馬場 正光
	前田潤之助	村山 善男
	曾和 政一	吉治 公男
	中村津代嗣	亀川 初代
	山下富士枝	辻 郁郎
	大原 大	福永 顕
	神田 泰男	中川 晃
	地藤久美子	山本 善浩
	増田 隆男	北村 重幸
	黄瀬伊代治	大谷大一郎
	奥山 善文	豊田いづみ
	藤田 仁史	福森 昭治
	荒川 正夫	奥村 重之

なお、旧水口町長西川勝彦様は、本人の意向により表彰を辞退されました。

甲賀市市民憲章

わたしたちは「みんながつくる住みよさと活気あふれる甲賀市」を目指して、この憲章を定めます。

あふれる愛に あなたも仲間
 いろどる山河と 生きいき文化
 こぼれる笑顔に 応える安心
 うみだす活力 受けつぐ伝統
 かがやく未来に 鹿深の夢を

逐条解説

甲賀市の将来像として、みんながつくる「住みよさと活気あふれるまち」が定着している。まちづくりの基本となるこの考え方を大切に、フレーズを憲章前文に織り込むこととした。

あふれる愛に あなたも仲間

「愛」、この言葉が人生の重荷や苦痛のすべてから私達を解放してくれる。ソフォクレス愛はいとおしく、かけがえないと思ふ心。自分は勿論、家族愛、隣人愛、人間愛や郷土愛、そして愛国心などと大きく広がり、人類に平和と幸福をもたらすもの。市民としての自覚を持ち、国籍・年齢・性別・職業・思想信条などを超えて「あなたも仲間ですよ」と呼びかけ、愛に満ちあふれ人権が尊重される心温かな甲賀市をみんなで築いていきたい。

いろどる山河と 生きいき文化

水清らかな河川と肥沃な大地、四季折々の表情を見せる田園風景や緑深い山々、そして温暖な気候に育まれながら、先人達が遺してくれた数多い神社仏閣、名所旧跡、祭礼、街道、甲賀流忍術、芸能、芸術や豊かな食の営み、その他有形無形の独自の価値あるものなど。まさに甲賀市全体が「天井のない博物館」のようである。これらの自然・文化遺産を守り活かしつつ、新しい文化を生み育てていきたい。

こぼれる笑顔に 応える安心

甲賀市に対する「おもい」を聞いた市民アンケートの結果、小学生の約20%から、安心・安全・やさしさ・思いやり・バリアフリーそして笑顔という回答が寄せられた。心身の健康、福祉の充実はもとより、安心・安全でかけがえない命の大切さを実感できることが、幸せで快適な暮らしにつながる。みんなが笑顔で暮らせるよう、わたしたち一人ひとりがこの「おもい」に応えていかなければならない。

うみだす活力 受けつぐ伝統

かつて、甲賀武士自らが作り出した自治制度である甲賀郡中物や同名中物、農民の確かな叫びであった天保義民の精神、生活の中から生み出され培われてきた道具や生き方、そして信楽焼や朝宮・土山の茶園、甲賀の薬業など古い歴史と技術を伝承する地場産業。時代を経て脈々と受けつがれてきたこれらの伝統と、時代に即して新しく生み出されてきた考え方、制度や技術、産業などには逞しい力を感じる。これからも「不易流行」、甲賀市の活気源として、しっかりと受けつぎ、いっそう発展させていきたい。

かがやく未来に 鹿深の夢を

かつては都がおかれ、今、首都機能移転候補地ともいわれるこの地は、日本の真ん中という地の利。これらのことを心にもって、失われつつある美しく豊かな原風景を守り、営々として培われてきた逞しい営みの数々を後世に伝えていくことが、わたしたちの課題であり、使命であると思う。6世紀末に描かれた鹿深臣のユートピアの夢は今も生きつづけている。わたしたちが目指す「みんながつくる住みよさと活気あふれる甲賀市」は、オンリーワンの“まほろば”でありたい。また、将来を託す子ども達への思いを「かがやく未来」に重ね合わせ、健やかな成長と、愛や夢にあふれた未来永い幸せを願うものである。

みなさんの“おもい”を大切に議論

市民憲章検討委員会

去る5月16日に発足した市民憲章検討委員会。市長から委嘱させていただいた10名の市民の皆さんにより起草が進められました。この間に実施した市民アンケートでは、1410名の方から甲賀市に対する“おもい”が寄せられました。また草案に対する市民意見を大切にしながらいっそう熱心に検討を重ねていただきました。委員の皆さん、ありがとうございました。

なお、委員会の活動経過や市民アンケートの結果など、詳細は近日市のホームページに掲載します。

検討委員の皆さんからのコメント

この憲章は「あいこうか」から始まるフレーズの中から自分の生きる目当てや生活していく上での行動規範の指標として、自分に適したものを自分で見つけ、それを自分で実践していただくというものです。決められたものを押し付けるのではなく、自己選択、自己決定をして実践するという憲章です。前文に掲げましたように「住みよさ」は安心度、利便性、快適さなどであり、明るく、たくましく、生きがいのある生活こそ「活気」だと考えます。この街にいて良かったと思う甲賀市をめざして市民一人ひとりの中に生きていく憲章でありたいと思います。